

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

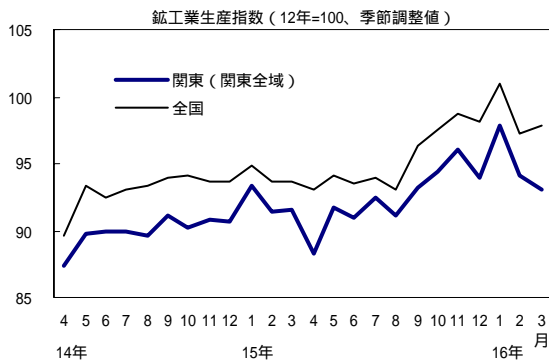
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 2 月）	今回（平成 16 年 5 月）	
鉱工業生産	増加	緩やかに増加	
個人消費	おおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる	緩やかに持ち直している	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。（関東全域）

一般機械は、おう盛な設備投資欲を背景に半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置が好調なことから、引き続き増加している。化学は、内需が堅調に推移したものの、中国を中心としたアジア向け輸出は、円高などから抑制の動きもあり、全体としてはおおむね横ばいとなった。輸送機械は、排ガス規制によるトラックの買い換え需要が一段落した影響から減少に転じた。情報通信機械は、携帯電話、DVDの反動減により、2月、3月と連続で減少したため、前期比でマイナスとなった。電気機械は、半導体・IC測定器が引き続き好調に推移したものの、リチウムイオン蓄電池などが低調であったことから、3月は増加したが四半期では減少となった。



（備考）平成 16 年 3 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

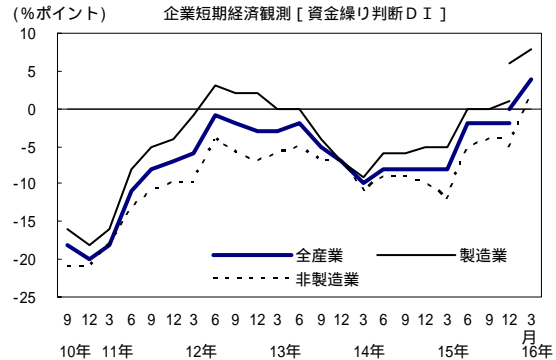
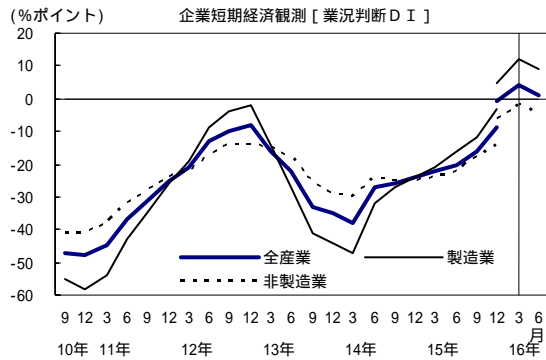
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	13.8	7.3	5.0	4.3	3.4
化学	13.7	0.1	0.2	2.0	1.1
輸送機械	11.3	2.5	2.5	4.6	3.3
情報通信機械	8.6	0.9	2.0	2.7	32.2
電気機械	7.9	8.8	1.6	0.4	4.3
鉱工業	100.0	2.8	0.2	0.1	1.5

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 1~3 月期は速報値。

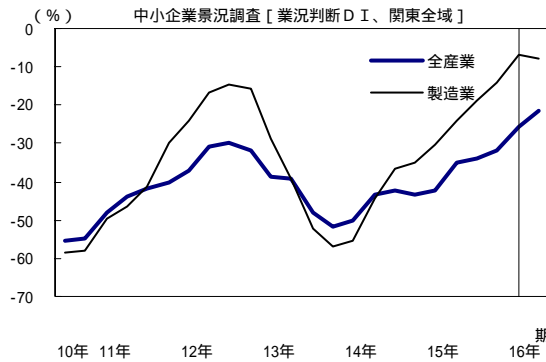
3. 1~3 月期の化学の生産、出荷については、1月、2月
確報値の平均より算出。在庫については、2月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
 15年12月(新基準)以降は神奈川県。
 旧基準は関東全域、新基準(15年12月以降)は神奈川県。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
 15年12月(新基準)以降は神奈川県。
 旧基準は関東全域、新基準(15年12月以降)は神奈川県。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「見積案件は一時期より増加しているが、契約に結び付くものは少ない状況が続いている(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

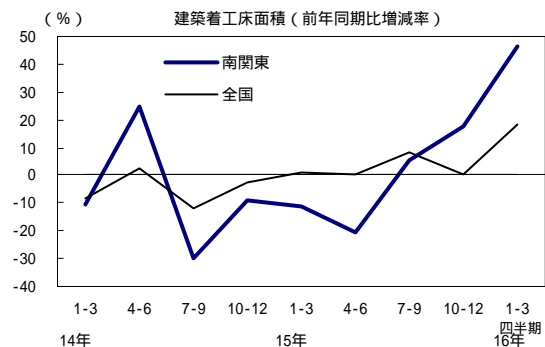
(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度計画
全産業	9.9(1.1)	1.2
製造業	5.9(1.3)	4.6
非製造業	17.2(0.7)	10.9

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

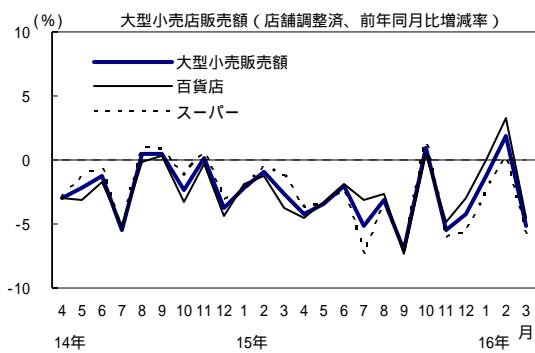
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売り、クリアランスセールや催事等の効果から、身の回り品や紳士服等に動きが見られるなど持ち直し、全体としては横ばいとなった。2月は、うるう年効果に加え、気温が高めに推移したことや改装、セール効果により、季節衣料を中心として、飲食料品、身の回り品にも動きがみられ、前年を上回った。3月は、後半気温が低く推移するなど、天候不順の影響から春物衣料の動きが鈍く、全ての商品がマイナスとなり、再び前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の4月の売上高は、前年同月比で3.0%の減となっている。

スーパーは、主力の飲食料品に持ち直しの動きがみられたものの、期間を通じて衣料品、家庭用品などが不振で、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「4月は、歓送迎会等で客は入っているが、価格を抑えたいという要望が多い(一般レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

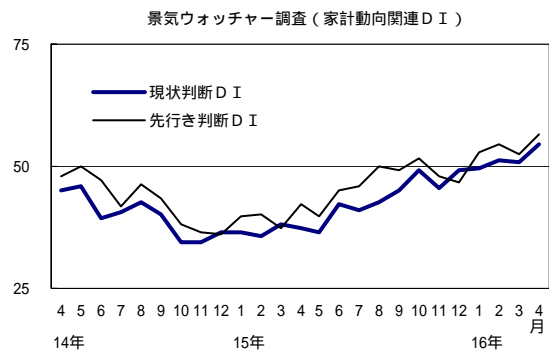
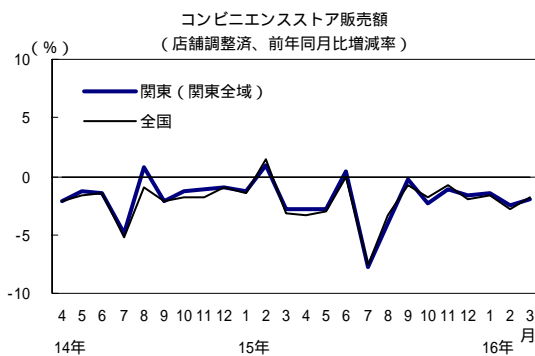


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
大型小売店	3.2	5.1	3.1	1.8
百貨店	3.2	4.3	2.5	0.7
スーパー	3.2	6.0	3.7	3.0
コンビニ	1.8	4.2	1.7	1.9
景気ウォッチャー	38.6	42.9	47.8	50.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。16年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域

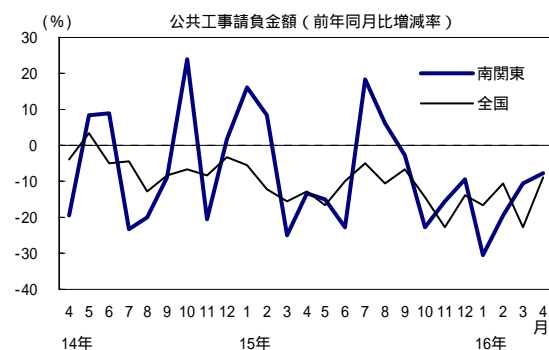
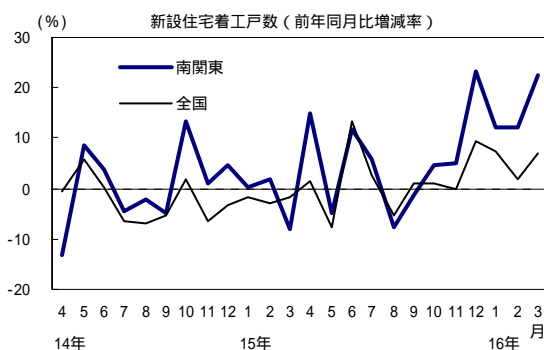
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家、分譲が前年を大きく上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

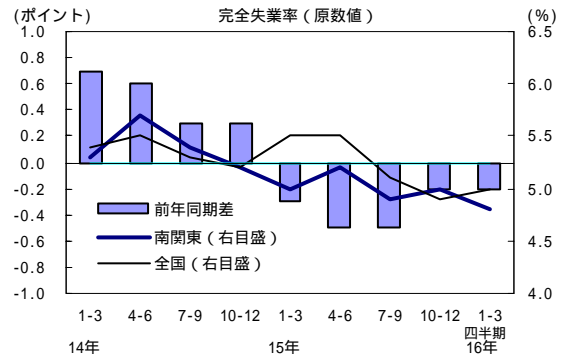
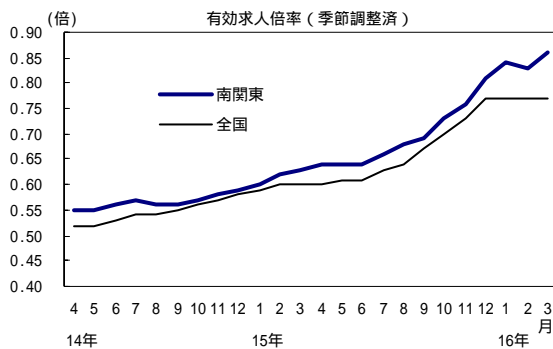


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

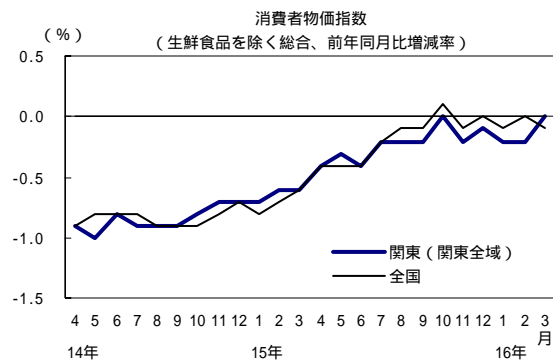
「企業の新卒採用復活の動きに伴い、内々定を得た学生も、更に上のランクをねらって就職活動を継続しており、活動が長期化している(求人情報誌製作会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月	16年4月
倒産件数	1,294	1,208	1,163	1,172	405
(前年比)	11.8	16.1	17.3	15.2	13.3
負債総額	8,523	13,483	7,886	12,879	4,047
(前年比)	40.0	1.6	51.1	35.3	62.2



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・4月の薄型テレビの販売台数が、ここ数か月の中で最も多くなっている。DVDレコーダーの売上も顕著に伸び、パソコン関係の商品についても、サブノートを中心に徐々に上向いている(家電量販店)。

<先行き>

・3か月後には消費者も消費税総額表示に慣れ、客に合った商品を提供すれば売上は回復に転じると見込まれる(スーパー)。

